

数学科教育法IVの授業評価

所属講座：数学教育 氏名：藤本義明

1. 授業の概要

数学科教育法IVの受講者は、教育学部生15名である。授業内容は、高校数学の指導についての講義とグループでの研究・発表の2つである。

2. 評価方法

授業の評価は、アンケート調査によって行った。質問項目は以下の9つである。

『高校の授業について』

問1：私は意欲的に取り組んだ。

問2：内容のレベルは私にとって難しすぎた。

問3：テストがある場合、何回が適切と思うか。

問4：高校の授業についての感想・意見など

『研究・発表について』

問5：私は研究・発表に意欲的に取り組んだ。

問6：研究内容のレベルは私にとって難しすぎた。

問7：研究・発表の授業数は少なすぎる。

問8：授業外で研究に費やす時間は負担である。

問9：研究・発表についての感想・意見など

問1～問2、問5～問8については、以下の数値から選択

5：全くそう思う 4：少しそう思う

3：ふつう 2：あまりそう思わない

1：全くそう思わない

問4と問9は筆記で回答させた。

3. 結果

高校授業	問1	問2	問3	
	3.6	2.8	1.8	
研究発表	問5	問6	問7	問8
	3.7	2.7	2.5	2.5

4. 分析

『高校の授業について』

高校数学の指導は昨年度からの内容である。これまでの中学での指導と比して難しく感じていないか懸念があったが、昨年度と同様にふつうという反応であった。この内容で定着させていけそうである。

また、昨年度と同様テストは行わなかったが、来年度からテストをする予定である。テスト回数についての学生の希望は2回程度のものである。授業回数と比して順当と考える。

筆記の回答としては、高校数学の指導に新鮮味を抱いている回答が目についた。指導の具体例を多く挙げるようにしたので、教材の理解に役立ったという感想が多かった。

『研究・発表について』

例年通りの内容であり、学生の感想評価も例年とほとんど同じである。意見としては、「班を1つ増やして4班にする」「研究方向性を最初に決定しておく」などがあつた。今後の検討課題とする。

5. 「授業時間外学習」の促進

本授業の後半の研究・発表は、学生が授業外で自主的に調べる活動が主である。この活動に学生は講義以上に意欲をもって取り組んでいる。筆記の回答では、「テーマはどれも以前から気になっていたのでは、その研究発表が聞けてよかった」、「自分たちで調べて行くうちに、知らなかった側面が明らかになった」など、自主学習を評価していた。

6. 地域とのつながりについて

数学は万国共通の言語ともいわれ、数学教育でも数学のユニバーサルな性格の良さを認識させるように努めている。したがって、地域性は求めにくく、今回は行っていない。